

(6) 2017年(平成29年) 1月19日(木曜日)

キリストの誕生を祝うクリスマスは、米国では12月25日まで祝い、その日が終わると、不思議なほどに忘れられてしまうが、ヨーロッパでは、その日からお祝いが始まる。それにしても、12月25日という日付はどこから来たのだろうか。

マタイの福音書に出てくる東方の博士たちは、星を頼りにエルサレムに来た。旧約と同じ時代に書かれた「エヌマ・アヌ・エンリル」という星占いの書物が最近発見されたが、そこに、木星が獅子座のレギュラスという星の周りを回ったり来たりする時、「ある者が立ち上がり、王を殺し、その王座に上る」ということが記されている。博士らは星の研究者(おそらくユ

ダヤ人)であつたらしく、星の動きをいつも調べていた。そして、占いの通りに紀元前3年9月14日、さらに次の年の2月16日と5月8日には、木星とレギュラスが重な

もとの相続者に戻すこと)を宣言するためのものであつたらしい。だから、ヨセフはそこに住み続ける目的で来た。律法によれば、その宣言は第7の月の10日に行われ、紀元前3年9月19日になる(星の出現の5日後)。したがって、イエス様がお生まれになつたのは、まだ登録の前で、まだ馬小屋にいたが、翌年の冬に博士らが訪れた時には、もうすでに(自分の土地の)家に住んでいたことが記されている(2章11節、また22節も参考)。

南加キリスト教会連合

現実となつた星占い

浅井 導

るといふ現象を見ると、この新しい王を見るために遠く、エルサレムまでやってきた。紀元前2年夏のこと。その頃から10月にかけて、木星は太陽に接近して夜空から消える。ヘロデ王が、キリストの

ルカの福音書によれば、ヨセフはマリヤを連れて自分の先祖のダビデの町で住民登録をするためにベツレヘムに来た。実は、この住民登録は単なる人口調査ではなく、奴隷の解放と負債の免除(土地を

左胸の辺りで一旦止まって、その後逆戻りして行く。博士らが「幼子」イエスを見つけたのは、おそらくこの時(9節)。

マタイによれば、ヘロデ王が殺したベツレヘムの子供たちは2歳以下。計算すると、イエス様はこの時1歳3カ月。マタイはヘロデ王がこの後すぐに死んだことを記しているが、歴史家ヨセフスによると、彼は月食の日と過越の祭りの間に死んだとある。この月食は、翌年紀元前1年1月9日の夜に起きている。赤く染まった月は、あたかも犠牲となつた子供たちを嘆いているようだ。これらの事実、すべて辻褃が合うのは、偶然だろうか。

(ダヴァール教会)